

北九州市芸術文化施設指定管理者検討会（第3回） 会議録
（旧百三十銀行ギャラリー）

- 1 開催日時 平成30年10月16日（火）13:00～16:00
- 2 場 所 大手町練習場 第1会議室
- 3 出席者 （検討会構成員） 秋山構成員、井端構成員、松木構成員
（事務局） 市民文化スポーツ局文化部文化企画課長、
施設係長、担当職員
- 4 会議内容
 - 当日の配布資料・議事次第等について、事務局より説明。
 - 検討会の位置づけ及び選定基準、採点の注意事項について、事務局より説明
 - 応募団体（株式会社佳音）から提案概要に関してヒアリング
 - （構成員） 指定管理により、これまで実施している事業に影響はないのか。
 - （応募団体） 当社に所属する7人の職員全員が、高い専門スキルを持っているので、指定管理を担ったとしても、従来業務を継続できる。
 - （構成員） 指定管理やそれに類する経験はあるか。
 - （応募団体） これまでに指定管理や、それに類する実績・経験は無い。他業種のエキスパートに協力してもらうことで対応していく予定。
 - （構成員） 利用者の声を集める方策や、集めた声をどのように施設運営に反映させるのか、具体的に説明してほしい。
 - （応募団体） これまでのアンケート項目の内容をブラッシュアップする。
また、イベント中の利用者とのやりとりで得た会話の内容をすべて職員間で共有・改善し、利用者満足度を高めたい。
音響を専門とする職員が当社に所属しており、職業柄、イベントの全体を見渡すことに長けており、「かゆいところに手が届くように対応するには、どうすればよいか」ということを常に考えている。細かいところまで見逃さずに見ていきたい。
 - （構成員） 提案書17ページに「アンケートは紙資料だけでなくグーグルフォームなどweb上で回答できるようにする」とあるが、この内容を具体的に説明してほしい。
 - （応募団体） web利用が苦手な方には従来どおり紙資料による対応を行い、希望者にはwebで対応することで、紙使用を削減する。
 - （構成員） 利用者アンケートを全件回収するための具体的な方策を説明してほしい。
 - （応募団体） イベント終わりに打ち合わせする時間を設けていただき、その際に

回収をしたい。また、未回答の方には後日連絡して、アンケート回答をお願いします。

(構成員) 旧百三十銀行ギャラリーは市指定文化財として保存するという目的もある。貴社のこれまでの事業は音楽イベントが中心のようだが、旧百三十銀行ギャラリーの施設について、座席数、広さなど、音楽演奏会の会場としての機能を有すると考えるか。

(応募団体) これまでに旧百三十銀行ギャラリーを借りて、絵本のイベントや音楽イベントを実施した経験がある。その経験を踏まえると、客席は70席程度しか並べられない一方で、演奏者と客席が近いので、臨場感が客にダイレクトに伝わり、大ホールでは得られない身近さがある。この点が旧百三十銀行ギャラリーの強みである。また、当社は音響機材を豊富に所有しているので、希望者にはそうした機材を貸し出すことで、隣接道路の騒音対策など、施設機能の補完が十分可能と考える。

(構成員) 旧百三十銀行ギャラリーは、立地条件がかなり厳しく、催しを行う場合、施設附属の駐車場台数が限られている点なども含め、どう対応するのか。

(応募団体) 駐車場は、施設裏側に駐車場(15台程度)があるが、加えて、近隣にある神社の駐車場を借りる予定。

(構成員) 音楽以外のイベントは考えているか。

(応募団体) 書道展や絵画展を考えている。その他、夏休み期間中は、小中学校生向けの夏休み自由研究に生かせるワークショップ開催などを考えている。

(構成員) 旧百三十銀行ギャラリーに常駐者を置く予定か。

(応募団体) 常駐者を置く予定。

○ 応募団体(株式会社椛組)から提案概要に関してヒアリング

(構成員) 新たな取り組みの提案はあるか。

(応募団体) 新たな取組みという意味での特別なメニューは考えてない。

今現在取り組んでいることを着実に継続することが、評価され、サービスにつながり、広く利用していただくことになると考えている。

(構成員) 収入について伺う。

入場者数は基準年である平成31年度から毎年2%増としているが、それに対して、使用料収入が毎年5万円上昇するとしている。この使用料収入増加は、確実な見込める内容か。

(応募団体) 使用料には、利用目的及び入場料の徴収の有無等により、A(3,000円)・B(6,000円)・C(9,000円)と3つの料金区分があり、件数が増えても、最も高い料金区分での利用件数だけが増加するとは考えていない。そこで、目標として毎年5万円の使用料金の増加を掲げている。

なお、テレビで当施設を見て、わざわざ遠方から2ヶ月に1回の頻度で利用している方がいる。このように、マスコミとタイアップして今後の収入増につなげることも大事だと考える。

(構成員) 旧百三十銀行ギャラリーは市指定文化財であるということで、施設

の保存を大事にするとの提案だが、もっと多くの催しがあるとよいと思うし、もっと有効活用してほしいと思う。そのことを踏まえ、現在の当該施設の利用はどういった内容のものが中心なのか教えてほしい。

(応募団体) 絵画展や書道展、音楽イベントが主軸。古布の手作り小物展示イベントなどもある。

なお、利用件数は年間30～40件。年間130日程度稼働しており、開館日数に対して30%程度の稼働率である。

(構成員) 市内の小中学校の書道部等への利用呼びかけも積極的に行ってほしい。

(応募団体) 情報発信は大切だと考え、これまでも過去の利用者や、市内小中学校に利用の呼びかけを実施している。

実際に、ある学校の美術部の利用実績がある。また、その美術部のOBによる利用実績もある。

ただし、作品の数の関係上、個展を毎年続けるのは難しいという利用者が多い。

(構成員) 項目「2 管理運営計画の適確性」の「有効性」のうち、「(1) 施設の設置目的の達成に向けた取組み」として、貴社保有の備品の無料貸出を提案している。現在も実施しているとのことだが、これまでの貸出実績や内容を教えてほしい。

(応募団体) 椅子や雛壇の貸出が多い。なお、ホールに置いてあるピアノも当社保有物で、「ピアノを持ってこなくてよい」ということで、この施設の利用を決めた利用者もいる。

(構成員) 現在実働しているボランティア団体として「旧百三十銀行ギャラリー友の会」を紹介いただいている。友の会の会員は、現在何人か。

(応募団体) 130名程度。なおこの中には個人だけでなく、法人会員も在籍。会員によるカラオケ大会が旧百三十銀行ギャラリーで開催されるなど、利用につながっている。

(構成員) 利用者の増加対策を具体的に教えてほしい。

(応募団体) 旧古河鋳業若松ビルと協議し、互いに利用者を紹介し合うなどで協力体制を構築することを考えている。例えば、旧百三十銀行ギャラリーでは飲食ができないので、食事を希望する方に旧古河鋳業若松ビルを紹介する。逆に、旧古河鋳業若松ビルで対応できない方がいれば、利用者を紹介してもらうことなどを考えている。

旧古河鋳業若松ビルも旧百三十銀行ギャラリーも築年数102年であり、後世に残すべき建物と考えており、社長以下、施設の管理に加え、施設のPRにも取り組み、辰野金吾氏の展示会も開催した。

○ 応募団体(旧百三十銀行ギャラリー管理運営共同事業体)から提案概要に関してヒアリング。

なお、応募団体「旧百三十銀行ギャラリー管理運営共同事業体」を以下「共同事業体」と表記し、その構成団体は、北九州活性化協議会を以下「協議会」、北九州市の文化財を守る会を以下「守る会」と表記する。

(構 成 員) 複数構成員による共同事業体にした理由は何か。

(応募団体) 「守る会」は、北九州市の文化財の調査・保存等を目的とした団体であり、旧百三十銀行ギャラリーの指定管理を担う業務に合致すると考えている。

一方、「協議会」は、イノベーションギャラリーの指定管理の経験を有し、特に今年度は近現代の建築遺産について調査・研究した実績がある。

それぞれ単独でも指定管理者となることは可能だが、旧百三十銀行ギャラリーは指定文化財なので、より多くの専門知識を持つ「守る会」と協働することにした。

(構 成 員) 「効率性に関する取組み」のうち、項目「(3) 指定管理料及び収入」の「イ 収入確保について」という点について伺う。

具体的な取組みとして「協議会」、「守る会」双方の人的ネットワークを活用した営業活動による収入確保」を提案しているが、この“ネットワーク”について具体的な説明をお願いします。

(応募団体) 「協議会」は市内約1,000社の企業との連携がある。一般企業の多くが、旧百三十銀行ギャラリーが貸館施設であることを知らないのので、この点を連携のある企業へ周知する。なお、旧百三十銀行ギャラリーの利用者として、これらの企業内にあるサークルを想定している。

また、「協議会」では「1000人の夢基金」という助成事業を実施しており、この事業を通じて約50団体にこれまで助成してきた。この助成事業は、北九州市の文化芸術に取り組んでいる団体に助成するという内容。助成対象団体の多くは、文化的な展示会や発表会などを行っている。これらの事業の会場として、旧百三十銀行ギャラリーの利用を提案したい。

(構 成 員) 提案では、文化財の保存をひとつの柱とし、もうひとつの柱として、市民の方の発表の場としての活用等も上げているが、今後、市民の方の発表の場、市民の芸術文化の向上に向けて、具体的にどのような事業・方針を考えているか。

(応募団体) まず、地元の自治会や、まちづくり団体などにも参加していただき、「管理運営委員会」を立ち上げる予定。

八幡駅前の地区の図書館や商業施設、文化団体などが参加する「文化を楽しむ会」を今年5月に立ち上げており、こうした会との連携で、イベントなどで利用してもらうことを考えている。

(構 成 員) 自主事業の提案は無いか。

(応募団体) 貸館がない期間は、写真パネル展のほか、市民講座の実施を考えている。

(事 務 局) 「効率性に関する取組み」の項目「(3) 指定管理料及び収入」のうち「ア 指定管理業務に係る費用について」で、開館時間を現在の『10時～18時』から、冬季は『10時～17時』とし、人件費を削減すること、また、閉館期間を、現在の「年末年始」に加え、「月曜日（その日が休日に当たるときはその翌日）」を加えると提案しているが、利用者

の利用可能な時間が減るという理解でよろしいか。

(応募団体) 利用者から「夜7時まで使いたい」という要望があれば、その要望に従って夜7時まで開館し、対応する予定である。

(事務局) なお、開館時間の変更や月曜休館の提案については、指定管理者に選定された場合、市と協議する必要がある。協議した結果、開館時間の変更や月曜休館の提案を採用できない場合、現在提案いただいている収支計画の人件費や光熱水費減などに影響することも考えられるが、そうした場合でも上限額の範囲内で対応することについては理解しているか。

(応募団体) 理解している。

(事務局) 自主事業については、「貸館利用が無い際に実施」との説明であったが、自主事業の実施に際しても使用料が発生するということは理解しているか。

(応募団体) 理解している。

○ 構成員は、「株式会社佳音」、「株式会社柁組」、「共同事業体」提案概要のヒアリングと質疑応答を受けて各自得点を記入し発表。

その後、構成員全員で意見交換

(構成員) 「株式会社佳音」については、利用拡大を図る提案について、練られた内容だと感じた。

「株式会社柁組」については、施設の保存を中心にすえており、利用拡大と言う点が十分でないと思う。

「共同事業体」については、民間出資の公益団体であり、ネットワークも広い。ただし、文化財という点について堅苦しくとらえているところがあるので、若年層を取り込めるような企画事業が欲しい。

以上を踏まえ、提案内容全体を比較した場合、「共同事業体」の提案が全体として最もしっかりした内容と考える。

(構成員) 指定管理制度を導入した目的のひとつは、施設の利用増であると思う。

「株式会社柁組」については、施設の保存を中心に考えている提案であり、「利用回数の増加」という点について、自主事業の提案が弱かった。「株式会社佳音」は文化財である当該施設の管理など、基本的な点について理解が十分でない。また、“やりたいこと”と“やれること”の境があいまいであり、提案内容が実施可能かどうか不安。

実施可能な内容かという点で、「共同事業体」の提案が着実であると考え。

(構成員) 応募のあった3つの団体の提案内容は、それぞれ特徴的であった。

「株式会社佳音」については、細かなイベントの提案によって、個人利用が増える可能性はあるが、「文化財としての施設の保存」について提案が薄い点が気にかかる。

「株式会社柁組」については、これまでの実績はあるが、現在の利用状況から、地域等へのアピールが不足しているように思う。

「共同事業体」については、「業務の基準」中、1 ページ目の項目「1 指定管理者の使命」で記載されている「北九州市の芸術文化施設として、『優れた芸術文化を市民が享受する機会の拡大、新たな芸術文化の創造及び市民文化の向上に資する』こと」という目的について、どこまで対応できるのか精査の必要があるが、団体の人的基盤や企業などとの人的ネットワークが安定しており、この強みを活用しながら地域活性化等に取り組めば、十分対応していけると考える。

以上から、「共同事業体」の提案が最も信頼性が高いと考える。

- 事務局は合計得点を発表し、検討会としての検討結果（総合的な所見）について協議

（構 成 員）当検討会としては、総合得点が最も高く、また、「適性」並びに「適正性」の項目で評価の高かった「共同事業体」が、旧百三十銀行ギャラリーの指定管理者としてふさわしいという検討結果とする。ただし、期待する点として、文化的な自主事業、特に若年者を対象とした取り組みに向けて、具体的な検討があると一層良いとする所見を付する。

（構 成 員）当検討会における議論を十分に考慮し、最終決定を行うよう市に求めることとする。

- 以上の意見交換を行った後、検討会を終了した。